



東京の会通信

No.232

2011年8月1日号
(毎月1回1日発行)

発行：公的骨髄バンクを
支援する東京の会
〒160-0005 東京都新宿区
愛住町23 Woody21-9F
TEL：03-3354-6377
(FAX兼用)



<http://www.marrow.or.jp/tokyo/>
e-mail:marrow_tokyo@yahoo.co.jp

定価 100 円

定期総会後の震災シンポジウム 詳細報告

●総会は無事終了、新体制で頑張ります！

6月25日、全労済東京会館にて東京の会の第22回定期総会が開催されました。総会では活動報告、会計報告、活動方針などの議案が承認されました。承認された議事の内容は先月速報でお伝えした通りです。今年度の役員人事では、二見茂男さんが東京の会事務局長に就任されました。2年ぶりの就任ではありますが、ご多忙の中の就任です。事務局員を構成して、サポートしていくことが確認されました。

一年間、未熟ながらも事務局長を担当させていただきました。会員の皆様の強力なサポートにより、各イベントの実施ができました。本当にありがとうございました。今年度も9月に鎌田實先生をお呼びしてイベントを開催したり、献血ルームにおけるドナー登録推進活動を実施したり、イベント盛りだくさんです。新事務局長二見さんを中心に、東京の会一丸となって頑張りますよ！(保居)

●シンポジウム～3.11の教訓と

今後に向けての対応について～

去る6月25日、全労済東京会館で開催された東京の会の総会に合わせて「東日本大震災の教訓と今後の危機管理対応について」と題するシンポジウムが行われました。3月11日のあの戦後最悪の震災において、骨髄バンク関係の組織や人々が直面した問題を明らかにし、今後の活動に活かしていきたいとの思いから企画されたものです。シンポジウムは二部構成をとりました。まず5名の方が約20分ほどの講演をしてくださいました。

最初に骨髄移植財団移植調整部長小瀧美加さんが、震

日本骨髄バンクの登録患者と検査済登録ドナー (平成23年6月末日現在)

	ドナー(全国)	ドナー(東京)	患者(全国)
登録者累計	385,349	53,931	33,226
6月登録分	3,019	367	263
6月抹消数	1,032	125	—
実質登録増	1,987	242	—

災直後の財団が被災地の病院・患者・コーディネーター・ドナー等々の状況把握に努められた状況、その中で直面した骨髄液等輸送の問題、そして43件中2件の方が骨髄移植からさい帯血移植への転換によって震災の危機を乗り越えられたこと等が報告されました。

次に日本さい帯血バンクネットワーク事業運営委員木村紀さんから、出庫を中止せざるをえなくなった宮城のさい帯血バンクのこと、さい帯血の輸送も大きな困難に遭遇したこと、危機管理マニュアル指針はあるがマニュアルそのものは未だ十分ではないことなどの課題が提起されました。

全国骨髄バンク推進連絡協議会地震PTリーダー三田村真さんからは、患者さんの状況把握や、医療品の充足状況調査などの活動を概括されたうえで、大震災被害患者救済基金の設置や谷口先生が原発事故に対応して提起された幹細胞採取プロジェクトへの支援や包括的な医療チーム結成の報告がなされました。



パネルディスカッションの様子

患者とドナー登録・適合状況(6月末日現在)

ドナー登録受付者数(累計)	503,783人
ドナー登録抹消者数(累計)	118,434人
有効二次検査済ドナー数	385,053人(6月2,015人増)
二次検査適合ドナー数(累計)	246,927人
実質登録患者実数(現在)	2,776人(国内1,490人)
HLA適合患者数(累計)	27,004人(患者累計数の81.3%)
非血縁移植実施数	13,072例(6月実施97例)

虎の門病院血液内科部長谷口修一先生からは、医療関係学会の震災への対応についての御考えと、御自身が被災患者の状況を把握するために行った中核病院や赤十字との折衝や規模の小さな病院の実態把握に払われた努力、それらを通じて得られた開業医など最前線の医療機関や自宅療養者の情報把握の困難性についての課題を提起されました。

最後に福島県骨髄バンク推進連絡協議会運営委員長陽田秀夫さんからは、福島にあってバンク活動の仲間も含め被災した人々は、さまざまな困難や悲しみに直面しておられること、それはいまや四重苦(地震、津波、原発事故、風評)に加えて先が見えないという苦しみで五重苦となっていること、そのなかであっても、協議会活動やドナー登録会は5月以来再開していること、「微力だけれども無力ではない」という言葉がボランティアの間に静かに広まっていることなどが報告されました。



終了後には恒例の集合写真

シンポジウムの後半第Ⅱ部は、講師の方々にパネラーになっていただき、パネルディスカッションを行いました。

まず今回、何が最もバンク活動にとって深刻な問題となったか、そこから得られる教訓は何かを議論しました。震災の規模や混乱の大きさを考えますと、リスクに対して骨髄移植推進財団とさい帯血ネットワークという二つの組織が存在することの大きさ、そしてその連携による病院等関係者間の情報収集と連絡体制の維持機能の重要性、一方で、東京でこのような震災が起きた時の中枢機能のマヒを思うと、今回の倥傯的な移植事例の成功に照らして、危機に際してのバックアップ体制の整備の必要性等が指摘されました。

次いで、原発事故という未曾有の事態が加わった今回の災害において今後のボランティア活動においては何が可能か、また何を今後重視していくべきかが議論されました。南海、東南海地震の到来確率が高い現在、欲しい情報がきちんと入手できることが重要であること、地域医療体制の再構築が必要であること、幹細胞採取プロジェクトに関する学会等での議論が進捗しない状況であること、病院のバックアップ電源態勢が脆弱であること、労働安全の観点からも留意が必要であること等々の貴重な意見、問題提起が出されました。

パネラーの皆さんの真剣な討議に加え、フロアからの質問も大変活発で、総括をする時間が無くなるほどでした。しかし、多くの面で大変啓発されるとともに改めて震災の深刻さを認識したシンポジウムであったと思います。講師兼パネラーの皆様並びに聴衆の方々に厚く御礼を申し上げます。

(東京の会 及川耕造)

酷暑のさくらんぼマラソンをマイペースで完走!

宮城じゅん

大震災から3ヵ月がたった6月11日、東北山形県で開催された「果樹王国ひがしねさくらんぼマラソン大会」に出場してきました。2日前の天気予報では傘マークがついていて心配していましたが、1日前になって急に晴れマークが登場し、とても暑い大会となりました。

山形駅近くに宿泊した私は、朝の4時過ぎに起きて、6時の始発で会場最寄り駅まで移動しました。ローカル線なので電車は1時間に1本間隔、乗り遅れないように必死でした。2両編成の短い車両には、同じくマラソン大会に出場するのであろう方々が多く乗っていました。電車移動はおよそ25分。山形駅はビルも多く建っていましたが、徐々にビルは姿を消し、線路沿いには多くのさくらんぼ農園が広がっていました。送迎バスで会場へ行くと、ついた先は自衛隊駐屯地。軍事ヘリや装甲車のある広い敷地に、マラソン大会の会場がありました。この大会の参加者は1万人以上、東北でも1クラスの大規模なマラソンイベントで、ゲストも瀬古利彦さん・千葉真子さん・高橋尚子さんと超がつくほどの豪華メンバーでした。

会場を散策していると、見覚えのある骨髄バンクの旗を見つけることができました。事前に連絡はしていましたが、

人見知りの性格なので恐る恐る挨拶をすると、温かく迎えてくれました。そして、去年福島イベントでお話した方とも再会することができました。

今回みなさんが5kmの部、10kmの部、ハーフの部と、それぞれの部門に出場とすることで、骨髄バンクの響やゼッケンが、多くの人の目にとまるだろうと期待できました。

ただ問題が一つ。今回の大会は気温25℃、湿度62%という厳しい条件。練習で走っていても、夏と冬では体力の消耗の違いは明白です。常に「笑顔で完走」が目標の私には、今までで一番過酷な大会かもしれません。

10km部門はおおよそ800人の参加。その中でいつも通り最後尾からマイペースでスタートすることにしました。スタートしてわずか5分あまり、早くも最下位を独走状態。本当に暑さが厳しいので、



のぼりをつけて走るのは地元のボランティア

関門に引っかからないギリギリのスピードで走っていきま
した。後ろには救護の自転車部隊、毎回最後尾を走る私に
っては見慣れた光景です。ただいつもと違う景色という
と、周りに戦車や軍事ヘリなどが並んでいること、こんな
ところを走れるのも、今大会ならではの魅力です。景色を
楽しみながら沿道で応援してくださる方とも一言二言会
話し、ゆっくり進んでいきました。Tシャツに書かれた「骨
髄移植で元気になりました!」と、いう文字や、帽子の「骨
髄バンク」の文字もしっかり見てもらえ、「骨髄バンクが
がんばれ〜!」「マイペース!マイペース!」と、嬉しい
声援がたくさん貰えました。

走り出して2kmくらい、早くも2名のリタイア者とすれ
違いました。やはりこの暑さは皆さんきつい様子、自分
も本当にきつくなった時は、絶対に無理せずにリタイア
しようと心がけました。

2km走ってやっと駐屯地から町中へ出ました。ゲス
ランナーも豪華とあって、町中の人々が沿道に自宅から
椅子を持ち寄って観戦し、小学校では生徒や先生が手
作りの47都道府県のボードを掲げ、ランナーと日本に
エールを送っていました。

練習不足と暑さが心配でしたが、なんとか5kmを過
ぎました。ここは関門がありますが、なんとか制限時間
には間に合ったようです。前半無理をしなかったおかげ
で体力も余っていたので、時間内に十分ゴールできると、
少し余裕も出てきました。

しかし、ここから先、沿道には倒れて応急処置を受け
ているランナーを多く見ました。やはりこの暑さと湿
度は、健康者にも相当きついようでした。ここで改めて
自分を過信せずに、給水所ではしっかりと水分補給を
し、常に笑顔が出せるくらいの余裕が持てるゆっくりの
走りを心がけました。

ゴールが近づくにつれて沿道のスタッフに「あれ、ずい
ぶん前に来たね。」「まだ余裕あるじゃん。」と、声
をかけられました。スタート直後から一人最後尾を走
っていたし、Tシャツには「元白血病患者」の文字が
書いてあったので、スタッフの方々も気にかけてく
れていたようです。終始無理をしなかったおかげで、
笑顔で「ただいま!」と、応えることができ、本当に
嬉しかったです。ゴール目前では高橋尚子さんがハ
イタッチしながらランナーをお出迎え、しっかりとハ
イタッチでき、ラストスパートのエネルギーを貰え
ました。

結果は制限時間1時間30分の大会で、見事に1時
間26分で完走。時間をめいっぱい使って、大勢の
応援に来ている方、ランナー、スタッフと、ハイタ
ッチしたり言葉を交わしたり、本当にたくさんの交
流ができました。

ゴール後は、山形のお米で作られたおにぎりと、さ
くらんぼを頂きました。そして山形や福島から参加
して下さった骨髄バンクランナーの皆さんと、お蕎
麦を食べながら、来年更に骨髄バンクを知ってもら
える大会にしようと話しました。是非、一緒に走り
たいという方は、来年みんな盛り上げましょう!

これからも「骨髄バンク」「白血病患者もこんな
に元になれるんだ」と、メッセージを伝えなが
ら、笑顔で全国を走りまわろうと思いま
す。



スタートは自衛隊駐屯地の中でした

東京ドナー登録会予定(8月)

8/3 (水) 赤羽駅東口 (北区)
8/3 (水) 日本橋プラザ (中央区)
8/7 (日) 池袋東口 (学生キャンペーン) (豊島区)
8/9 (火) ~12 (金) 足立区役所 (足立区)
8/18 (木) 尾久消防署 (荒川区)
8/18 (木) 新宿区役所 (新宿区)

8/19 (金) 中央区役所 (中央区)
8/21 (日) 池袋駅東口 (豊島区)
8/24 (水) 北区役所 (北区)
8/25 (木) 中央区立産業会館 (中央区)
8/31 (水) 目黒区役所 (目黒区)
8/31 (水) 練馬区役所 (練馬区)

東京の会 「8月定例会」 のお知らせ

8月20日 (土) 午後5時30分より
会場: 全労済東京・レインボー会館3階会議室
※新宿駅下車7分 (新宿区西新宿7-20-8)
※西新宿駅下車1番出口徒歩2分
青梅街道新宿警察署きらやか銀行の角入ってすぐ右側

※9月定例会予定・9月17日 (土) 午後5時30分より
定例会は 毎月第3土曜日午後5時30分 から開催しています。

9月会報発送 「おりおり」 のお知らせ

9月3日 (土) 13時00分より
※13時までは品川運輸さんが使用されています。13時以降にお越し下さい。
場所: 品川運輸・4階会議室 (品川区東大井2-1-8)
JR大井町駅徒歩8分・京浜急行鮫洲駅徒歩2分
※今お読みになっている「東京の会通信」を約1000部
折って封入して発送します。簡単な誰にでも出来る作
業です。いつも人手が足りません。どうかご協力を。
※10月「おりおり」予定・10月1日 (土) 13時00分より

新しい方大歓迎です。お気軽においで下さい。お待ちしております。

編集者 雑記



▼3月11日に発生した東日本大震災からこの8月で5ヶ月が過ぎようとしています。7月下旬の時点で、死者は1万5千人を超え、行方不明者も合わせると約2万人の方が犠牲となりました。また、未だに避難所で不自由な生活を強いられている方々も1万7千人を超えています。津波の被災地ではがれきの撤去も思うように進まず、復旧・復興の道筋さえ見えてきていません。

▼加えて今回の震災では、福島第一原発の事故があまりに大きな影響を及ぼし続けています。原発周辺の住民は強制避難となり、いつ戻れるのか全くめどが立っていません。農産物や魚介類、さらには肉牛からも基準値を超える放射能が検出されて、出荷ができなくなる事態が続出しています。産業や経済活動への被害は広範囲に及び、人々の生活と雇用を破壊し、その被害額はいったいどれくらいになるのか予測がつかません。また、直接の死傷者は出ていないものの、事故による被害を苦にした自殺や避難所で体調を崩して亡くなる方も出ています。

▼その福島第一原発の事故は、汚染水の浄化・循環装置がようやく稼働したもののトラブルが相次いでおり、冷温停止に向けた計画が予定通り進むとは思えない状況です。そしてその間、たとえ微量だとしても放射能が漏れ続けることになりまし、いつまた制御不能に陥らないとも限りません。計画通り進んだとしても、廃炉までには数十年かかるという気の遠くなるような話です。

▼今回私たちは、自然が持つ力の大きさ、恐ろしさに圧倒されました。人間は自然を破壊し、改造し、利用して生きています。しかし、人間は自然を支配することはできない、智恵や技術ではどうにもできないことがあるということを、あらためて思い知らされました。巨大な津波の前には防波堤も無力でした。原発の安全神話もまたもろくも崩れ去りました。「想定外」という言葉が政府や東京電力幹部、学者から発せられ、非難を浴びましたが、まさに「想定外」の起こすのが自然の力なのです。そのことは決して忘れてはならないと思います。

▼そして、いったん事が起れば、直接的な被害にとどまら

ず、予想もつかなかったことが次から次へと発生します。福島第一原発の事故も直接の被害は電源喪失でしたが、それを発端として原子炉が制御不能に陥り、水蒸気爆発を起こして大量の放射性物質が放出されました。放射性物質は空気や水、土壌を通じて拡散し、蓄積されます。今回の肉牛の汚染も稲わらに蓄積された放射性物質が原因です。それがまさか松坂牛にまで与えられていたとは、政府としてはまたしても「想定外」だったようですが、生産・物流システムが複雑に絡みあう現代社会では起こりうることなのです。

▼自然の力には人間には制御できません。今回のような「想定外」の事態を発生させないために、「想定」の範囲を広げ、二重・三重の防御策を講じることは重要です。それでも「想定外」の事態は起こり得ます。その時にいかに被害を最小限に押さえるか、これも大きな課題です。今回の震災を教訓に、災害対策に止まらず、インフラや社会システムも含めて「想定外」の事態に対応するための危機管理を、あらゆる政府・行政機関、企業、さらには家庭や個人においても、考えていく必要があると思います。東京の会が総会後に震災をテーマにしたシンポジウムを開催したのも、そういう思いからでした。

▼ただ、原発に関しては「想定外」の事態の結果があまりに深刻で、許容できるリスクの範囲を超えているようにも感じます。東京の会通信6月号の記事で懸念されていたことが現実となり、原発作業員のなかから被曝限度を超えた方が数名出ました。今のところ深刻な健康被害はないようですが、長期的なフォローが必要です。万が一の事態が発生したときは、骨髄移植推進財団も緊急のコーディネートをする用意があることを表明しています。また、虎ノ門病院の谷口先生などを中心に、危険な作業の前に自己末梢血幹細胞を採取・保存する体制づくりを政府に提言しましたが、こちらはどうも無視されたままになっているようです。

▼放射能汚染の恐ろしさは、その危険性が長期に渡って続くこと、そして人体への影響がどうなるのか、実際のところはよくわからないことです。「一時的に基準を上回っても直ちに健康に影響はない」とよく言われますが、長期にわたる影響はどうか、原子力の専門家だけでなく、移植医の先生方も「心配しなくて良い」と言われますが、放射能は目に見えないだけに不安が募ります。特に小さなお子さんを持つ親御さんは神経質にならざるを得ないでしょう。今後また「想定外」の事態が起こらないとも限りません。私たちが過敏になる必要はありませんが、政府や自治体は、市民の不安を取り除くためにもできる限りのことをして欲しいと思います。(S)

心のこもったご寄付ありがとうございました。(2011.6.16~7.15)

大貫 洋二さん 15,000円／手塚 春枝さん 7,000円／石山 ナナさん 2,000円／大坪 節子さん 5,000円
板橋 一郎さん 3,000円／石山 永士・勝子さん 7,000円／西河内 靖泰さん 5,000円／匿名 41,500円
小屋松 一子さん 2,000円／赤沼 正清さん 7,000円／高木 和子さん 10,000円／三瓶 和義さん 7,000円
中谷 哲郎・光子さん 6,000円／山村 詔一郎さん 2,000円／二見 茂男さん 7,000円／木村 紀さん 5,000円
名川 一史さん 7,000円／笠原 誠さん 1,000円／及川 耕造さん 2,000円／小瀧 美加さん 5,000円
谷口 修一さん 10,000円／訪問看護ステーションすびか 10,000円

お寄せいただいたご寄付のうち、会費未納の会員からは会費(年3,000円)を差し引いて掲載させていただきました。